

1 主 題 進んで考え、共に学び合うことができる児童の育成 ～課題解決に向けて、自分の考えを進んで伝えることができる子～

2 ねらい

(1) 主題設定の理由

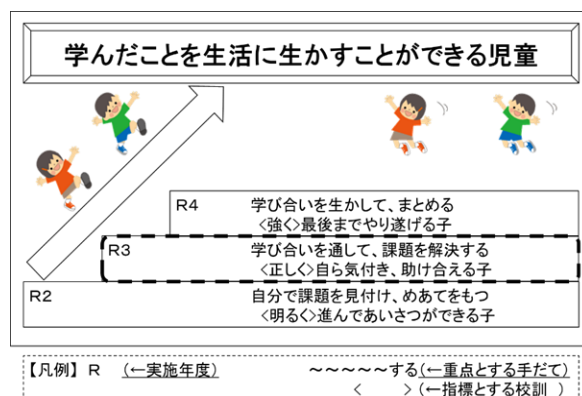
本校は、知識が豊富で、意欲的に学習に取り組む児童が多い。しかし、学習の結果に強いこだわりを示し、その結果を導き出した根拠を問うと答えられない児童が少なくない。また、課題を早くやり終えることに満足し、与えられた課題以上のことに取り組もうとしなかったり、分からない課題があっても、そのままやり過ごそうとしたりする児童の姿も見られ、積極的に自らの課題を解決していこうとする姿をまだまだ多く見ることはできない。

また、生活面に目を向けると、廊下や階段を走ったり、名札や帽子を正しく身に付けたりするといった基本的なきまりを守れない児童の姿も見られる。この原因として、集団生活をよりよくするための方法が分からなかったり、その問題点に気付くことができなかつたりするのではないかと考えられる。

(2) これまでの研究から

本校は、平成 29 年度から令和元年度までの 3 年間、「進んで考え、共に学び合うことができる児童の育成」を研究主題として、国語科の物語文の読み取り指導を中心に、努力点研究に取り組んできた。3 年間の取り組みによって、「めあてをもつ」「学び合う」「まとめる・生かす」の学習展開が児童・教師ともに定着し、成果を上げることができた。

そこで、令和 2 年度からは、重点はそのままに、特別の教科 道徳において実践を行うこととし、本校の校訓を指標として指導を繰り返し、学び合いで学んだことを生活に生かすことができる児童を育成していきたいと考えた。昨年度は、自分で課題を見付け、めあてをもつための手だてに重点を置いて、進んで挨拶ができる子を目ざして研究に取り組んだ。低学年はロールプレイング、中学年は統計資料の提示、高学年はワークシートの工夫や自身の生活を振り返り、数値化する活動を取り入れることで、学習のめあてをもつという一定の成果を挙げることもできた。また、廊下ですれ違う教職員や、校外で顔を合わせる地域の方にも進んであいさつをする児童が増えてきた。そこで、今年度は、昨年度までの成果を生かしつつ、学び合いの方法や内容を充実させ、校訓〈正しく〉自ら気付き、助け合える子の育成を目指したい。昨年度の実践の課題から、意見交流の時間が不足したこと、コロナ感染予防の観点から対面を回避しながらも個々の考えが深まるような意見交流の方法を検討していく必要がある。



3 研究の方法

(1) 学年テーマの設定

- ・ 各学年で実態調査を行い、学年のテーマ・目指す児童像を設定する。
- ・ 各学年で主題・教材名・手だて等について検討し、実践計画を立てる。

(2) 日常実践

- ・ あいさつに関するめあての設定と振り返り活動を通年で行う。
- ・ めあての内容と振り返りの方法は、各学年で相談・決定をする。

(3) 授業実践

- ・ 一人一実践を行い、授業実践を公開する。
- ・ 授業日の設定については、学年間で調整をし、実践計画書に記載する。